



400G デジタル コヒーレント光ファイバの構成

この章では、400G デジタル コヒーレント QSFP-DD 光モジュールとサポートされる構成について説明します。

- 400G デジタル コヒーレント光ファイバの概要 (2 ページ)
- 400G デジタル コヒーレント光ファイバパラメータ (2 ページ)
- トラフィック構成パラメータ (5 ページ)
- 400G デジタル コヒーレント光ファイバの注意事項と制約事項 (6 ページ)
- ZR モジュールでの 400G デジタル コヒーレント光ファイバの構成 (10 ページ)
- ZRP モジュールでの 400G デジタル コヒーレント光ファイバ (DCO) の構成 (13 ページ)
- ブレークアウトの設定 (15 ページ)
- トランシーバ自動スケルチの構成 (16 ページ)
- トランシーバループバックを構成 (17 ページ)
- トランシーバパフォーマンス モニタリングの構成 (18 ページ)
- トランシーバアラームの構成 (21 ページ)
- 400G デジタル コヒーレント光ファイバの確認 (23 ページ)
- 400G コヒーレント光ファイバの構成例 (24 ページ)
- ZR 光ファイバのファームウェアのアップグレード (27 ページ)
- 光回線システムの概要：QSFP-DD のプラガブル サポート (29 ページ)
- メリット (30 ページ)
- サポートされるプラットフォーム (30 ページ)
- 注意事項と制約事項 (30 ページ)
- 増幅器制御モードの構成 (47 ページ)
- ゲイン コントロールモードを構成 (48 ページ)
- 電力制御モードの構成 (48 ページ)
- 電力削減モードを構成 (49 ページ)
- 光安全性リモートインターロック (OSRI) モードの構成 (50 ページ)
- 安全制御モードを構成 (50 ページ)

■ 400G デジタルコヒーレント光ファイバの概要

- OLS 構成の確認 (51 ページ)

400G デジタルコヒーレント光ファイバの概要

振幅のみを使用する PAM4 光ファイバ（パルス振幅変調）とは異なり、コヒーレント光ファイバは位相と振幅を使用してデータをエンコードします。これにより、コヒーレント光ファイバはノイズに対する耐性が向上しており、長距離伝送をサポートできます。

Cisco 400G デジタルコヒーレント光ファイバの詳細については、『Cisco 400G デジタルコヒーレント光ファイバ QSFP-DD 光ファイバ モジュール データ シート』を参照してください。

400G デジタルコヒーレント光ファイバには 2 つのバリエーションがあります。

- **ZR バリアント** : QSFP-DD ZR バリアントは OIF MSA に準拠しており、同じ MSA 標準に準拠した同等のコンポーネントとの互換性を提供します。ZR 標準の主な用途は、ポイントツーポイント トポロジで 400G 波長を最大 120 km の距離まで伝送できるようにすることです。
- **ZR Plus バリアント** : QSFP-DD OpenZR+ モジュールは、OpenZR+ MSA に準拠しています。ZR+ プラグ可能コヒーレント光ファイバは、エンドポイント間で複数の波長を増幅できる複数のサイトを使用することにより、地域内から長距離伝送までをサポートします。ZR+ は、変調方式、シェーピング、およびボーレートに関する複数の構成オプションをサポートしており、さまざまなネットワーク トポロジに対応し、他の方式よりも長い伝送距離 (120 km 超) を可能にしています。

400G デジタルコヒーレント光ファイバ パラメータ

400G デジタルコヒーレント光ファイバは構成可能で、光ファイバに関する次のパラメータを構成できます。構成値の詳細については、表 1: 400G デジタルコヒーレント QSFP-DD トライフィックの構成値 (4 ページ) を参照してください。

- **[トランスポンダ/マックスポンダモード (Transponder/Muxponder mode)]** : このパラメータは、メディア回線を 400G で構成し、ホスト側に最大 4 つのクライアントを構成するために使用されます。
- **[DAC レート (DAC rate)]** : デジタルアナログ変換 (DAC) パラメータは、オーバーサンプリング (パルス整形の有効化または無効化) とメディア回線モデルを標準 (S) または拡張 (E) に設定するために使用されます。
- **[FEC モード (FEC mode)]** : 前方誤り訂正 (FEC) は、メディア回線で cFEC または oFEC モードをサポートし、データ伝送中のエラーを制御するために使用されます。
- **[変調 (Modulation)]** : このパラメータは、光波を制御して、搬送光波の情報をエンコードするために使用されます。サポートされる変調は、16 QAM、8 QAM、および QPSK です。

- [CD 最小/最大 (CD min/max)]**: 波長分散 (CD) は、光ファイバ通信において重要な要素となる現象です。光線が接続先に到達する時間がわずかに異なることで、その色(波長)に違いが生じることによって発生します。このパラメータは、デバイスが良好な光信号と周波数を取得する範囲を設定するために使用されます。

マックスポンダ-FEC-変調	CD デフォルト高 (ps/nm)	CD デフォルト低 (ps/nm)	最大プロビジョニング可能な CD 高 (ps/nm)	最小プロビジョニング可能な CD 低 (ps/nm)
400G-400GZR-cFEC-16QAM	2400	-2400	2400	-2400
400G-400GZR-oFEC-16QAM	13,000	-13000	52000	-52000
200G-200GZR-oFEC-QPSK	50000	-50000	100000	-100000
200G-200GZR-oFEC-8QAM	26000	-26000	100000	-100000
200G-200GZR-oFEC-16QAM	21000	-21000	85000	-85000
100G-100GZR-oFEC-QPSK	80000	-80000	160000	-160000

- [Tx パワー (Tx power)]**: 送信光ファイバパワーは、光ファイバモジュールの送信端にある光源の出力光ファイバパワーを指し、受信光パワーは、光ファイバモジュールの受信端にある光源の入力光ファイバパワーを指します。

各光モジュールには、独自の送信 (TX) 電力範囲があります。モジュールの機能に基づいて、送信 (TX) 電力値を変更できます。

光ファイバモジュール	トランク速度 ^{1, 3}	光ファイバ送信パワー (Tx) シェイピング	インターバル (Interval)	光ファイバ送信電力 (Tx) 値のサポートされる範囲 (0.1 dBm 単位) ²		
				最小値 (Minimum Value)	最大標準値	最大最悪ケース値
QDD400GZRS	400G	いいえ	1	-150	-100	-100
QDD400GZRPS	400G	はい	1	-150	-110	-130
QDD400GZRPS	200G	はい	1	-150	-90	-105
QDD400GZRPS	100 G	はい	1	-150	-59	-75

- [周波数 (Frequency)]**: 光ファイバ通信では、波長分割多重 (WDM) は、異なる波長 (つまり色) のレーザー光を使用して、複数の光キャリア信号を单一の光ファイバに多重化する技術です。この技術により、波長分割デュプレックスとも呼ばれる1本の光ファイバを介した双方向通信と、キャパシティの増加が可能になります。このパラメータは、ITU C-BANDテーブルの任意の周波数を設定するために使用されます。値の詳細については、「[ITU C-BAND テーブル](#)」セクションを参照してください。

■ 400G デジタルコヒーレント光ファイバパラメータ

構成の詳細については、「[ZR モジュールでの 400G デジタルコヒーレント光ファイバの構成（10 ページ）](#)」セクションを参照してください。

次の表に、トランスポンダ (TXP) およびマックスポンダ (MXP) モードでの 400G デジタルコヒーレント QSFP-DD 光ファイバモジュールの可能なトラフィック構成値を示します。

表 1: 400G デジタルコヒーレント QSFP-DD トラフィックの構成値

クライアント速度	トランク速度	周波数	FEC	変調	DAC レート
QDD-400G-ZR-S トランスポンダおよびマックスポンダの構成値					
1 クライアント、速度 400G	1 トランク、400G	C バンド、196.1 ~ 191.3 THz	cFEC	16 QAM	1 x 1
QDD-400G-ZRP-S トランスポンダおよびマックスポンダの構成値					
1X400GA UI-8	1 トランク、 速度 400G	C バンド、 196.1 ~ 191.3 THz	cFEC	16 QAM	1 x 1
4X100GA UI-2					
1X400GA UI-8	1 トランク、 速度 400G	C バンド、 196.1 ~ 191.3 THz	cFEC	16 QAM	1x1.5
4X100GA UI-2					
1X400GA UI-8	1 トランク、 速度 400G	C バンド、 196.1 ~ 191.3 THz	oFEC	16 QAM	1x1.25
4X100GA UI-2					
1X400GA UI-8	1 トランク、 速度 400G	C バンド、 196.1 ~ 191.3 THz	oFEC	16 QAM	1x2
4X100GA UI-2					
1X400GA UI-8	1 トランク、 速度 400G	C バンド、 196.1 ~ 191.3 THz	oFEC	16 QAM	1 x 1
4X100GA UI-2					

クライアント速度	トランク速度	周波数	FEC	変調	DAC レート
1X400GA UI-8	1 トランク、 速度 400G	C バンド、 196.1 ~ 191.3 THz	oFEC	16 QAM	1x1.5
4X100GA UI-2					
2X100GA UI-2	1 トランク、 速度 200G	C バンド、 196.1 ~ 191.3 THz	oFEC	QPSK	1x1.5
				QPSK	1
100 G	1 トランク、 速度 100G	C バンド、 196.1 ~ 191.3 THz	oFEC	QPSK	1x1.5

トライック構成パラメータ

次の表に、サポートされているさまざまなトライック構成を示します。

TXP/MXP	クライアント (Client)	トランク	変調	FEC	DAC レート
400G-TXP	1 クライアント、速度 400G	1 トランク、 速度 400G	16 QAM	oFEC	1x1、1x1.25、 1x1.5 および 1x2
400G-TXP	1 クライアント、速度 400G	1 トランク、 速度 400G	16 QAM	cFEC	1x1、および 1x1.5
4x100G-MXP	4 クライアント、速度 100G	1 トランク、 速度 400G	16 QAM	oFEC	1x1、1x1.25、 1x1.5、および 1x2
4x100G-MXP	4 クライアント、速度 100G	1 トランク、 速度 400G	16 QAM	cFEC	1x1、および 1x1.5
2x100G-MXP	2 クライアント、速度 100G	1 トランク、 速度 200G	QPSK	oFEC	1x1、および 1x1.5
			8 QAM		1x1.25
			16 QAM		1x1.25
1x100G-MXP	1 クライアント、速度 100G	1 トランク、 速度 100G	QPSK	oFEC	1x1.5



(注)

- ZR は 1x400G トランスポンダのみをサポートします。
- ZR は 1x1 DAC レートのみをサポートします。
- 4x100 および 2x100 マックスポンダを構成するには、ZRP を構成する前にインターフェイス ブレークアウトを実行する必要があります。詳細については、[ブレークアウトの設定 \(15 ページ\)](#) の項を参照してください。

400G デジタルコヒーレント光ファイバの注意事項と制約事項

400G デジタルコヒーレント光ファイバには、次の注意事項と制約事項があります。

- Cisco NX-OS リリース 10.4(1)F 以降、400G デジタルコヒーレント光ファイバ (DCO) サポートは、Cisco Nexus 9300-GX2 および 9408 プラットフォームスイッチで提供されます。
- Cisco NX-OS リリース 10.4(2)F 以降、QDD-400G-ZR-S および QDD-400G-ZRP-S 光ファイバサポートは、次のスイッチおよびラインカードで提供されます。
 - Cisco Nexus 93600CD-GX、9316D-GX スイッチ、および X9716D-GX ラインカードを搭載した Cisco Nexus 9508/9504 スイッチ。
 - Cisco Nexus X98900CD-A and X9836DM-A ラインカードを搭載した Cisco Nexus 9804/9808 スイッチ。
- 1x100G トランスポンダおよび 2x100G マックスポンダモードは、Cisco Nexus 93600CD-GX、9316D-GX スイッチ、および Cisco Nexus X98900CD-A および X9836DM-A ラインカードではサポートされません。
- QDD-400G-ZR-S 光ファイバは、インターフェイスのブレークアウトをサポートしていません。
- QDD-400G-ZRP-S 光ファイバは、インターフェイスのブレークアウトをサポートします。ZRP 光ファイバでは、複数のブレークアウトマップがサポートされています。
- 2x100 ブレークアウトインターフェイスには、ブレークアウトマップ **100g-2x-pam4** オプションを使用します。
- システムの安定性と効率を向上させるために、DCO の頻繁な挿入と取り外しを避けることをお勧めします。OIRの場合、バックツーバック トランシーバの挿入と取り外しの間に少なくとも 1 分間待つ必要があります。
- ZR/ZRP モジュールの光ファイバの最大リンクアップ時間は最大 180 秒です。

- 電力制限のために影響を受けたコヒーレント光ファイバ ポートまたは MACsec ポートを回復するには、アクティブな ZR/ZRP ポートをディセーブルにするか、既存の MACsec セッションを構成解除して、影響を受けるポートをフラップする必要があります。



(注) N9K-C9332D-H2R スイッチには、MACSec セッションの数に制限はありません。

- 一部のプラットフォームでは、ハードウェアの電力制限があり、多数の 400Gig-ZR/ZRP トランシーバと MACsec 構成を同時に使用することが制限されています。
- Cisco NX-OS リリース 10.4(2)F 以降、2X100 マックスポンダは 8QAM および 16QAM 変調をサポートします。
- Cisco NX-OS リリース 10.4(3)F 以降では、Cisco Nexus C93400LD-H1 および N9K-C9332D-H2R スイッチで次のトランシーバがサポートされています。
 - QDD-400G-ZRP-S
 - QDD-400G-ZR-S



(注) N9K-C93400LD-H1、QDD-400G-ZRP-S、および QDD-400G-ZR-S トランシーバは、奇数番号または偶数番号のポートに挿入できます。ただし、N9K-C9332D-H2R スイッチでは、QDD-400G-ZRP-S および QDD-400G-ZR-S トランシーバは奇数番号のポートにのみ挿入する必要があります。これらのトランシーバを偶数番号のポートに挿入すると、ハードウェアの熱制限により、ポートがエラー状態になります。

- Cisco NX-OS リリース 10.4(3)F 以降、これらの追加のコマンドが導入されました。
 - zr-Optics frequency** コマンドを使用すると、Cisco Nexus 9000 スイッチの ZR 光モジュールの周波数を設定して、DWDM システムで最適なパフォーマンスを実現できます。
 - tunnel auto-squelch** コマンドは、光トランシーバのスケルチ機能を制御することで、信号整合性を自動的に管理するのに役立ちます。
 - transceiver loopback** コマンドでは、Cisco デバイスの光トランシーバでループバック モードを構成できます。
 - transceiver performance-monitoring** は、Cisco デバイスの光トランシーバのパフォーマンス モニタリングを可能にします。
 - transceiver alarms** コマンドを使用すると、Cisco デバイスの光トランシーバでアラームを構成できます

■ 400G デジタルコヒーレント光ファイバの注意事項と制約事項

- Cisco NX-OS リリース 10.2 (2) F以降、**transceiver auto-squelch** コマンドは、光トランシーバのスケルチ機能を制御することで、信号整合性を自動的に管理するのに役立ちます。
- Cisco NX-OS リリース 10.2 (2) F以降では、**show interface interface transceiver details** コマンドの出力には、400G デジタルコヒーレント光ファイバのファームウェアのメジャーバージョンとマイナーバージョンに関する詳細も含まれます。
- Cisco NX-OS リリース 10.6(1)F 以降、パフォーマンス モニタリング データを使用した TPMON は、次の Cisco Nexus プラットフォームでサポートされています。
 - N9K-C9348D-GX2A
 - N9K-C9364D-GX2A
 - N9K-C9332D-GX2B
 - N9K-C9408
 - N9K-C93600CD-GX
 - N9K-C9316D-GX
 - N9K-C9804、N9K-C9808

パフォーマンス モニタリング データは、次の光ファイバ/トランシーバ タイプでのみサポートされます。

- QSFP-DD-400G-ZR-S
- QSFP-DD-400G-ZRP-S
- DP04QSDD-HE0
- パフォーマンス モニタリングは任意のインターフェイスでイネーブルにできますが、履歴データは、上記の光ファイバ/トランシーバの場合にのみ収集されます。
- パフォーマンス データでは、30 秒、15 分、および 24 時間の固定バケット間隔のみがサポートされます。ユーザー構成可能な間隔はサポートされていません。
- TPMON は、33 の 30 秒間隔、33 の 15 分の間隔、2 つの 24 時間の間隔のパフォーマンス データを保持します。
- すべてのパフォーマンス モニタリング データは、TPMON プロセスの再起動時またはスイッチのリロード時に失われます。設定のみがこれらのイベント後に保持されます。
- 間隔を指定せずに **clear counters interface transceiver performance-monitoring history** コマンドを使用して、30 秒、15 分、および 24 時間のバケットのすべての履歴データを同時にクリアできます。
- **DP04QSDD-HE0** の場合

- リリース 10.4(3)F 以降、DP04QSDD-HE0 は、GX/GX2 プラットフォームおよび X98900CD-A および X9836DM-A ライン カードの 1x400 および 1x100 mux ポンダー モードでのみ、次の DAC レートでサポートされます。
 - dac_rate 1x1_50 (CFEC あり)
 - dac_rates 1x1_25 および OFEC モードの 1x1_50
- 光学系の最大リンクアップ時間は最大 240 秒です。
- Cisco NX-OS リリース 10.5(1)F 以降、DP04QSDD-HE0(Bright-ZR) は、GX/GX2 プラットフォームおよび X98900CD-A および X9836DM-A ライン カード上の 4x100 および 2x100 mux ポンダー モードでサポートされます。
- 制約事項の概要は次のとおりです。
 - **Cisco Nexus 9364D-GX2A の場合 :**
 - システムに 9つ以上の MACsec セッションが構成されていて、ZR/ZRP トランシーバが存在しない場合、ZR/ZRP トランシーバを挿入すると対応するポートが無効になります。ZR/ZRP トランシーバが存在しない場合、許可される MACsec セッションの最大数は 16 です。
 - システムにアクティブ状態の ZR/ZRP トランシーバが 9つ以上あり、MACsec セッションが存在しない場合、新しい MACsec セッションの起動は失敗します。MACsec セッションがシステムに存在しない場合、アクティブな ZR/ZRP トランシーバの最大数は 13 です。14 番目の ZR/ZRP トランシーバを挿入すると、対応するポートが無効になります。
 - MACsec セッションとアクティブな ZR/ZRP トランシーバの両方が共存する場合、合計の制限は MACsec セッションが最大 8 つ、ZR/ZRP トランシーバが最大 8 つです。9 番目の MACsec セッションを構成するか、9 番目のアクティブ ZR/ZRP を追加すると、対応するポートが無効になります。
 - ZR/ZRP トランシーバは、このプラットフォームの奇数番号の前面ポートでのみサポートされます。偶数番号の前面ポートに ZR/ZRP トランシーバを挿入すると、ポートはエラー状態になります。
 - **Cisco Nexus 9332D-GX2B の場合 :**
 - システムに 5つ以上の MACsec セッションが構成されていて、アクティブな ZR/ZRP トランシーバが存在しない場合、ZR/ZRP トランシーバを追加すると対応するポートが無効になります。アクティブな ZR/ZRP トランシーバが存在しない場合、許可される MACsec セッションの最大数は 8 です。9 番目の MACsec セッションを設定すると、対応するポートが無効になります。
 - システムに 5つ以上のアクティブな ZR/ZRP トランシーバが挿入されていて、MACsec セッションが存在しない場合、新しい MACsec セッションの起動は失敗します。システムに MACsec セッションが存在しない場合、アクティブな ZR/ZRP

ZR モジュールでの 400G デジタルコヒーレント光ファイバの構成

トランシーバの最大数は 8 です。9 番目の ZR/ZRP トランシーバを挿入すると、対応するポートが無効になります。

- MACsec セッションとアクティブな ZR/ZRP トランシーバの両方が共存する場合、組み合わせでの制限は最大 4 つの MACsec セッションと最大 4 つのアクティブな ZR/ZRP トランシーバです。5 番目の MACsec セッションを構成するか、5 番目の ZR/ZRP を挿入すると、対応するポートが無効になります。
- ZR/ZRP トランシーバは、このプラットフォームの前面ポートのいずれかでサポートされます。

• Cisco Nexus 9348D-GX2A の場合 :

- ZR/ZRP トランシーバは、このプラットフォームの次の 24 個の前面ポートでサポートされます。
 - 3、6、9、12、15、18、21、24、27、30、33、36、39、42、45、48、26、29、32、35、38、41、44、47



(注)

上記のリストにない他の前面ポートに ZR/ZRP トランシーバを挿入すると、ポートがエラー状態になります。

• Cisco Nexus 9408 の場合 :

- システムは、MACsec 構成が存在するかどうかに関係なく、最大 32 のアクティブな ZR/ZRP トランシーバをサポートできます。
- ZR/ZRP トランシーバは、Cisco Nexus X9400-8D モジュールでのみサポートされます。

ZR モジュールでの 400G デジタルコヒーレント光ファイバの構成

DAC レート、マックスポンダ モード、変調、および FEC パラメータについて、ZR モジュールのコヒーレント光ファイバを構成できます。

始める前に

DCO の構成時に次の点に注意してください。

- ZR 光ファイバを挿入しないと、コヒーレント光ファイバ構成は機能しません。
- ZRP モジュールで特定の zr 光ファイバを構成すると、コヒーレント構成は機能しません。

- ZR モジュールで特定の zrp 光ファイバを構成すると、コヒーレント構成は機能しません。

手順の概要

- 1. configure terminal**
- 2. interface ethernet {type slot/port}**
- 3. [no] zr-optics fec fec_val muxponder mxp_val modulation mod_val dac-rate dr_val**
- (任意) **zr-optics cd-min cd_min cd-max cd_max**
- (任意) **zr-optics transmit-power tx_pwr**
- (任意) **zr-optics dwdm-carrier [100MHz-grid frequency freq_100mhz_val | 100GHz-grid frequency freq_100ghz_val | 50GHz-grid { frequency freq | itu-channel itu-chan | wavelength wavelen }]**
- (任意) **[no] zr-optics frequency frequency-value**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	interface ethernet {type slot/port} 例： <pre>switch(config)# interface ethernet 1/3 switch(config-if)#</pre>	設定するインターフェイスを指定し、インターフェイスコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	[no] zr-optics fec fec_val muxponder mxp_val modulation mod_val dac-rate dr_val 例： <pre>switch(config-if)# zr-optics fec cFEC muxponder 1x400 modulation 16QAM dac-rate 1x1</pre>	ZR 光ファイバで次のパラメータを構成します。 詳細については、 400G デジタル コヒーレント光ファイバパラメータ（2 ページ） セクションを参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> • FEC • マックスポンダ • 変調 • DAC
ステップ 4	(任意) zr-optics cd-min cd_min cd-max cd_max 例： <pre>switch(config-if)# zr-optics cd-min -2300 cd-max 2300</pre>	設定された最小値と最大値を使用して、コヒーレント光ファイバの波長分散を構成します。 詳細については、 400G デジタル コヒーレント光ファイバパラメータ（2 ページ） の項を参照してください。

ZR モジュールでの 400G デジタルコヒーレント光ファイバの構成

	コマンドまたはアクション	目的
		(注) 任意のデータレートの CD の最大値と最小値を構成する場合は、構成された値の最小差が 1000 ps/nm 以上であることを確認します。
ステップ 5	(任意) zr-optics transmit-power tx_pwr 例： <pre>switch(config-if)# zr-optics transmit-power -190</pre>	光信号の送信電力を設定します。詳細については、 400G デジタルコヒーレント光ファイバパラメータ（2 ページ） の項を参照してください。 (注) Tx 電力パラメータは、ユーザー構成をハードウェアにプログラムするベストエフォート構成です。しかし、ZR/ZRP トランシーバファームウェアはこれを参照としてのみ使用し、実行時に実際の最適な Tx 電力値を計算します。これはユーザー構成と同じである場合とそうでない場合があります。
ステップ 6	(任意) zr-optics dwdm-carrier [100MHz-grid frequency freq_100mhz_val 100GHz-grid frequency freq_100ghz_val 50GHz-grid { frequency freq itu-channel itu-chan wavelength wavelen }] 例： <pre>switch(config-if)# zr-optics dwdm-carrier 100MHz-grid frequency 1913000</pre>	構成された周波数（100MHz グリッド、100GHz グリッド、または 50GHz グリッド）に基づいて周波数を構成します。50GHz グリッドは、追加の ITU チャネルまたは波長パラメータを提供します。詳細については、 400G デジタルコヒーレント光ファイバパラメータ（2 ページ） の項を参照してください。 (注) 周波数が [50Ghz グリッド 波長 (50Ghz-grid wavelength)] または [50 Ghz グリッド ITU チャネル (50Ghz-grid itu-channel)] オプションを使用して構成されている場合、システムは特定の波長または ITU チャネルの周波数を計算し、それを使用してハードウェアをプログラムします。
ステップ 7	(任意) [no] zr-optics frequency frequency-value 例： <pre>switch(config-if)# zr-optics frequency 193500.0</pre>	DWDM グリッド要件に合わせて、ZR 光モジュールの動作周波数を GHz 単位で構成します。 頻度の構成を無効にするには、 no 形式を使用します。

ZRP モジュールでの 400G デジタルコヒーレント光ファイバ (DCO) の構成

DAC レート、マックスポンダモード、変調、および FEC パラメータについて、ZRP モジュールのコヒーレント光ファイバを構成できます。

始める前に

DCO の構成時には、次の点に注意してください。

- ZRP 光ファイバを挿入しないと、コヒーレント光ファイバ構成は機能しません。
- ZRP モジュールで特定の zr 光ファイバを構成すると、コヒーレント構成は機能しません。
- ZR モジュールで特定の zrp 光ファイバを構成すると、コヒーレント構成は機能しません。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **interface ethernet {type slot/port}**
3. [no] **zrp-optics fec fec_val muxponder mxp_val modulation mod_val dac-rate dr_val**
4. (任意) **zrp-optics cd-min cd_min cd-max cd_max**
5. (任意) **zrp-optics transmit-power tx_pwr**
6. (任意) **zrp-optics dwdm-carrier [100MHz-grid frequency freq_100mhz_val | 100GHz-grid frequency freq_100ghz_val | 50GHz-grid { frequency freq | itu-channel itu-chan | wavelength wavelen }]**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	interface ethernet {type slot/port} 例： <pre>switch(config)# interface ethernet 1/3 switch(config-if)#</pre>	設定するインターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。

ZRP モジュールでの 400G デジタルコヒーレント光ファイバ (DCO) の構成

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	[no] zrp-optics fec fec_val muxponder mxp_val modulation mod_val dac-rate dr_val 例： <pre>switch(config-if)# zrp-optics fec cFEC muxponder 1x400 modulation 16QAM dac-rate 1x1</pre>	ZRP 光ファイバで次のパラメータを構成します。詳細については、 400G デジタルコヒーレント光ファイバパラメータ (2 ページ) セクションを参照してください。 <ul style="list-style-type: none">• FEC• マックスポンダ• 変調• DAC
ステップ 4	(任意) zrp-optics cd-min cd_min cd-max cd_max 例： <pre>switch(config-if)# zrp-optics cd-min -2400 cd-max 2400</pre>	設定された最小値と最大値を使用して、コヒーレント光ファイバの波長分散を構成します。詳細については、 400G デジタルコヒーレント光ファイバパラメータ (2 ページ) の項を参照してください。 (注) 任意のデータレートの波長分散の最大値と最小値を構成する場合は、構成された値の最小差が 1000 ps/nm 以上であることを確認します。
ステップ 5	(任意) zrp-optics transmit-power tx_pwr 例： <pre>switch(config-if)# zrp-optics transmit-power -190</pre> 例： <pre>switch(config-if)# zrp-optics transmit-power -13.5</pre>	光信号の送信電力を設定します。詳細については、 400G デジタルコヒーレント光ファイバパラメータ (2 ページ) の項を参照してください。 (注) Tx 電力パラメータは、ユーザー設定をハードウェアにプログラムするベストエフォート設定です。しかし、ZR/ZRP トランシーバファームウェアはこれを参照としてのみ使用し、実行時に実際の最適な Tx 電力値を計算します。これはユーザー構成と同じである場合とそうでない場合があります。 (注) zrp-optics transmit-power コマンドは、10 進数形式と整数形式の両方の値を受け入れるようになりました。
ステップ 6	(任意) zrp-optics dwdm-carrier [100MHz-grid frequency freq_100mhz_val 100GHz-grid frequency freq_100ghz_val 50GHz-grid { frequency freq itu-channel itu-chan wavelength wavelen }] 例： <pre>switch(config-if)# zrp-optics dwdm-carrier 100MHz-grid frequency 1913000</pre>	構成された周波数 (100MHz グリッド、100GHz グリッド、または 50GHz グリッド) に基づいて周波数を構成します。50GHz グリッドは、追加の ITU チャネルまたは波長パラメータを提供します。詳細については、 400G デジタルコヒーレント光ファイバパラメータ (2 ページ) の項を参照してください。

	コマンドまたはアクション	目的
		(注) 周波数が [50Ghz グリッド波長 (50Ghz-grid wavelength)] または [50 Ghz グリッド ITU チャネル (50Ghz-grid itu-channel)] オプションを使用して構成されている場合、システムは特定の波長または ITU チャネルの周波数を計算し、それを使ってハードウェアをプログラムします。

ブレークアウトの設定

ZRP 光ファイバのインターフェイスでブレークアウトを構成できます。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **interface breakout module {slot} port {port_num} map {breakoutmap}**
3. **interface ethernet {type slot/port/sub-port}**
4. **[no] zrp-optics fec fec_val muxponder mxp_val modulation mod_val dac-rate dr_val**
5. (任意) **show running interface ethernet {type slot/port}**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	configure terminal 例： <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ2	interface breakout module {slot} port {port_num} map {breakoutmap} 例： <pre>switch(config)# interface breakout module 1 port 3 map 100g-2x-pam4</pre>	インターフェイスブレークアウトを構成します
ステップ3	interface ethernet {type slot/port/sub-port} 例： <pre>switch(config)# interface ethernet 1/3/1 switch(config-if)#</pre>	設定するインターフェイスを指定し、インターフェイスコンフィギュレーションモードを開始します。

■ トランシーバ自動スケルチの構成

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	[no] zrp-optics fec fec_val muxponder mxp_val modulation mod_val dac-rate dr_val 例： <pre>switch(config-if)# zrp-optics fec oFEC muxponder 2x100 modulation QPSK dac-rate 1x1</pre>	ブレークアウトインターフェイスで ZRP を構成します。
ステップ 5	(任意) show running interface ethernet {type slot/port} 例： <pre>switch(config-if)# show running interface ethernet1/3/1</pre>	ブレークアウトインターフェイスに設定されている構成情報を表示します。

トランシーバ自動スケルチの構成

光トランシーバのスケルチ機能を使用すると、信号の整合性を自動的に管理し、望ましくないノイズを防止し、クリーンな信号伝送を確保できます。

この機能は、信号の完全性が重要な高速光ネットワーク環境で使用します。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **interface ethernet {type slot/port/sub-port}**
3. **[no] transceiver auto-squelch**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： <pre>switch# configure terminal switch(config) #</pre>	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 2	interface ethernet {type slot/port/sub-port} 例： <pre>switch(config) # interface ethernet 1/3/1 switch(config-if) #</pre>	構成するインターフェイスを指定し、インターフェイス構成モードを開始します。
ステップ 3	[no] transceiver auto-squelch 例： <pre>switch(config-if) # transceiver auto-squelch</pre>	望ましくないノイズを防ぐために、信号のスケルチングを有効にします。このコマンドは、デフォルトでインエーブルになっています。

	コマンドまたはアクション	目的
		自動スケルチングを無効にするには、 no 形式を使用します。

トランシーバー ループバックを構成

ループバックテストを使用して、信号を発信元に再ルーティングすることで、ネットワーク接続とトランシーバ機能を診断およびトラブルシューティングできます。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **interface ethernet {type slot/port/sub-port}**
3. **[no] transceiver loopback{internal | line}**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	configure terminal 例： <pre>switch# configure terminal switch(config) #</pre>	グローバル構成モードを開始します。
ステップ2	interface ethernet {type slot/port/sub-port} 例： <pre>switch(config) # interface ethernet 1/3/1 switch(config-if) #</pre>	構成するインターフェイスを指定して、インターフェイス構成モードを入力します。
ステップ3	[no] transceiver loopback{internal line} 例： <pre>switch(config-if) # transceiver loopback internal switch(config-if) # transceiver loopback line switch(config-if) # no transceiver loopback</pre>	トランシーバループバックを有効にします。このコマンドは、デフォルトで無効になっています。 <ul style="list-style-type: none"> • [内部 (Internal)] : 内部ループバックを構成して、外部信号なしでトランシーバの内部機能を検証します。 • [回線 (Line)] : 送信された信号をレシーバにルーティングするように回線ループバックを構成します。このモードでは、伝送パス全体をテストし、信号または接続のエラーをチェックします。

■ トランシーバパフォーマンス モニタリングの構成

コマンドまたはアクション	目的
	<p>トランシーバループバックを無効にするには、no 形式を使用します。</p> <p>(注) サービスを中断することなくループバック テストをサポートするようにネットワーク環境が構成されていることを確認します。</p>

トランシーバパフォーマンス モニタリングの構成

重要なメトリックを収集して分析することで、最適なパフォーマンスを確保し、潜在的な問題を迅速に検出できます。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **interface ethernet {type slot/port/sub-port}**
3. **[no] transceiver performance-monitoring**
4. (任意) **show interface ethernet {type slot/port} performance-monitoring**
5. (任意) **show interface ethernet {type slot/port} transceiver performance-monitoring history bucket_interval {fec | optics} interval interval_value**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	configure terminal 例： <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル構成モードを開始します。
ステップ2	interface ethernet {type slot/port/sub-port} 例： <pre>switch(config)# interface ethernet 1/25 switch(config-if)#</pre>	構成するインターフェイスを指定し、インターフェイス構成モードを開始します。
ステップ3	[no] transceiver performance-monitoring 例： <pre>switch(config-if)# transceiver performance-monitoring</pre>	パフォーマンスマニタリングを構成して、パフォーマンスをモニターおよび最適化します。 <ul style="list-style-type: none"> • [リアルタイムモニタリング (Real-Time Monitoring)] : 光パワーレベル、分散、ビット

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>エラー レートなどのトランシーバ メトリックを観察できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害検出：トランシーバの問題をプロアクティブに特定して対処し、ネットワークの中断を防ぐことができます。 [パフォーマンスの最適化 (Performance Optimization)]：指定されたパラメータ内で動作するようにトランシーバをモニターして、ネットワークの効率を維持できます。 <p>トランシーバ パフォーマンス モニタリングを無効にするには、no 形式を使用します。</p>
ステップ 4	<p>(任意) show interface ethernet {type slot/port} performance-monitoring</p> <p>例：</p> <pre>switch(config-if)# show interface ethernet 1/25 transceiver performance-monitoring current 30-sec</pre>	トランシーバ パフォーマンス モニタリング情報を表示します。
ステップ 5	<p>(任意) show interface ethernet {type slot/port} transceiver performance-monitoring history bucket_interval {fec optics} interval interval_value</p> <p>例：</p> <pre>switch# show interface ethernet 1/25 transceiver performance-monitoring history 15-min fec interval 5</pre>	<p>指定したインターフェイスの履歴パフォーマンス モニタリングデータ、パケット間隔、データ レイヤ、および間隔値を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> eth_interface はクエリされるイーサネットインターフェイスを指定します。 bucket_interval はデータパケットの時間間隔 (30 秒、15 分、または 24 時間) を示します。 fec または optics は FEC データ レイヤと光データ レイヤを選択します。 interval_value は表示する特定の履歴間隔を指定します。 <p>(注) この CLI は、Cisco NX-OS リリース 10.6(1)F 以降でサポートされます。</p>

例

トランシーバ パフォーマンス モニタリング情報の確認

```
switch(config-if)# show interface ethernet 1/25 transceiver performance-monitoring current
30-sec
```

■ トランシーバパフォーマンス モニタリングの構成

```

Interface Ethernet1/25
-----
Optics in the current interval [21:32:49 Wed Nov 20 2024 - 21:33:00 Wed Nov 20 2024]

Parameter      MIN      AVG      MAX
-----
CD(Short) [ps/nm] 0.00    0.00    0.00
DGD[ps]        0.47    0.55    0.63
RX PWR[dBm]     -9.56   -9.55   -9.54
TX PWR[dBm]     -10.00  -9.99   -9.99
OSNR[dB]        28.10   28.10   28.10
RX CHAN PWR[dBm] -9.25   -9.24   -9.22
ESNR[dB]         16.60   16.60   16.60
LASER BIAS[mA]   201.00  201.00  201.00
FREQ OFF[Mhz]    -314.00 -303.00 -294.00
SOP RATE[krad/s] 4.00    4.00    4.00
PDL[dB]          0.50    0.50    0.50
SOPMD[ps^2]       1.60    1.79    2.17

FEC in the current interval [21:32:49 Wed Nov 20 2024 - 21:33:00 Wed Nov 20 2024]

EC BITS : 0
UC WORDS : 0

Parameter      MIN      AVG      MAX
-----
PREFEC BER    9.32e-04 9.38e-04 9.43e-04
POSTFEC BER   0.00e+00 0.00e+00 0.00e+00
Q FACTOR[dB]   9.80    9.86    9.89
Q MARGIN[dB]   2.80    2.80    2.80

```

トランシーバパフォーマンス モニタリング情報のクリア

インターフェイスの 30 秒間隔カウンタをクリアするには

```
clear counters interface ethernet <> transceiver performance-monitoring current 30-sec
```

インターフェイスの 15 分間隔カウンタをクリアするには

```
clear counters interface ethernet <> transceiver performance-monitoring current 15-min
```

インターフェイスの 24 時間間隔カウンタをクリアするには

```
clear counters interface ethernet <> transceiver performance-monitoring current 24-hour
```

すべてのインターフェイス上で 30 秒間隔カウンタをクリアするには

```
clear counters interface transceiver performance-monitoring current 30-sec
```

すべてのインターフェイス上の 15 分間隔カウンタをクリアするには

```
clear counters interface transceiver performance-monitoring current 15-min
```

すべてのインターフェイスで 24 時間間隔カウンタをクリアするには

```
clear counters interface transceiver performance-monitoring current 24-hour
```

履歴トランシーバパフォーマンス モニタリング データのクリアするには

特定のインターフェイスのすべての履歴パフォーマンス モニタリングデータ（30 秒、15 分、および 24 時間のバケット）をクリアするには：

```
clear counters interface ethernet <> transceiver performance-monitoring history
```

すべてのインターフェイス上でパフォーマンスモニターリング履歴データをすべてクリアするには、次の手順を実行します。

```
clear counters interface transceiver performance-monitoring history
```

オプションで、1つのタイプのパケット（30秒、15分、または24時間）のみをクリアする場合は、特定の間隔を指定できます。

```
clear counters interface ethernet <> transceiver performance-monitoring history 30-sec
```

トランシーバアラームの構成

キー パフォーマンス パラメータのしきい値を設定して、しきい値が事前定義されたしきい値を超えたときにアラームをトリガーします。

手順

ステップ1 **configure terminal** コマンドを使用して、グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。

例：

```
switch# configure terminal
switch(config) #
```

ステップ2 インターフェイスを指定して、インターフェイス構成モードを開始する **interface ethernet type slot/port/sub-port** を使用します。

例：

```
switch(config)# interface ethernet 1/21/1
switch(config-if) #
```

ステップ3 **[no] transceiver alarms cd | dgd | lbc | osnr | prefec-ber | laser-temperature | temperature | voltage | rx-power { high-threshold | low-threshold threshold-value }** を使用してトランシーバアラームのしきい値を設定します。

例：

```
switch(config)# interface ethernet 1/21
switch(config-if) # transceiver alarms cd high-threshold 300000
switch(config-if) # transceiver alarms dgd high-threshold 100
switch(config-if) # transceiver alarms esnr high-threshold 25
switch(config-if) # transceiver alarms laser-temperature low-threshold 51.67
switch(config-if) # transceiver alarms laser-temperature high-threshold 40.21
switch(config-if) # transceiver alarms temperature low-threshold 79.00
switch(config-if) # transceiver alarms temperature high-threshold 1.00
switch(config-if) # transceiver alarms voltage low-threshold 6.90
switch(config-if) # transceiver alarms voltage high-threshold 2.67
switch(config-if) # transceiver alarms rx-power low-threshold 46.00
switch(config-if) # transceiver alarms rx-power high-threshold -41.23
```

アラームをトリガーするために重要なメトリックをモニターするためのしきい値を設定します。

- **cd**：波長分散の上限しきい値と下限しきい値を設定します。

■ トランシーバアラームの構成

- **dgd** : グループ遅延差の高しきい値と低しきい値を設定します。
- **ensr** : 電気信号対雑音比の高しきい値と低しきい値を設定します。
- **lbc** : レーザーバイアス電流のパラメータの上限しきい値と下限しきい値を設定します。
- **onsr** : 光信号対雑音比の低しきい値を設定します。
- **prefec-ber** : 前方誤り訂正ビットエラーレートの上限しきい値と下限しきい値を設定します。
- **laser-temperature** : レーザー温度の上限と下限のしきい値を設定します。
- **voltage** : 上限と下限のしきい値の電圧を設定します。
- **rx-power** : 順方向 rx 電力の上限と下限のしきい値を設定します。

トランシーバアラームを無効にするには、**no** 形式を使用します。

(注)

ネットワーク設計およびパフォーマンス要件のしきい値を決定します。しきい値を定期的に確認して調整し、ネットワークの状態と目的に合わせます。

ステップ4 (任意) **show running-config interface ethernet** コマンドを使用してトランシーバアラームを表示します。

例 :

```
switch(config)# show running-config interface ethernet 1/21
!Command: show running-config interface Ethernet1/21
!No configuration change since last restart
!Time: Mon Mar 24 21:57:21 2025
.
.
!
interface Ethernet1/1
  transceiver alarms laser-temperature low-threshold 51.67
  transceiver alarms laser-temperature high-threshold 40.21
  transceiver alarms temperature low-threshold 79.00
  transceiver alarms temperature high-threshold 1.00
  transceiver alarms voltage low-threshold 6.90
  transceiver alarms voltage high-threshold 2.67
  transceiver alarms rx-power low-threshold 46.00
  transceiver alarms rx-power high-threshold -41.23
  no shutdown
```

トランシーバアラームの表示

```
switch# show interface ethernet 1/21 transceiver alarms
  Interface Ethernet1/21
  Current System Time: 08:54:38 Wed Apr 23 2025
  Current State          Occurrences          Last Trigger          Last Reset
  -----  -----
  DEFAULT TRANSCEIVER ALARMS:
  -----
  .
  .
  .
  CONFIGURATION ALARMS:
  -----
```

FEC Alarms:				
Pre Fec BER low alarm	ok	0		never
never				
Pre Fec BER high alarm	ok	0		never
never				
Optics Alarms:				
CD low alarm	ok	0		never
never				
CD high alarm	ok	0		never
never				
DGD high alarm	ok	0		never
never				
LBC low alarm	ok	0		never
never				
LBC high alarm	ok	0		never
never				
OSNR low alarm	ok	0		never
never				
ESNR low alarm	ok	0		never
never				
ESNR high alarm	ok	0		never
never				
Temperature low alarm	ok	0		never
never				
Temperature high alarm	activated	1	01:09:27 Apr 21 2025	
never				
Voltage low alarm	activated	1	19:07:39 Apr 21 2025	
never				
Voltage high alarm	ok	0		never
never				
Rx Power low alarm	ok	0		never
never				
Rx Power high alarm	ok	0		never
never				
Laser temperature low alarm	ok	0		never
never				
Laser temperature high alarm	ok	0		never
never				

トランシーバ アラーム情報のクリア

インターフェイスのアラームをクリアするには、**clear counters interface ethernet transceiver alarms** コマンドを使用します。

```
clear counters interface ethernet 1/21 transceiver alarms
```

すべてのインターフェイスでアラームをクリアするには、**clear counters interface transceiver alarms** コマンドを使用します。

```
clear counters interface transceiver alarms
```

400G デジタル コヒーレント光ファイバの確認

400G デジタル コヒーレント光ファイバ構成情報を確認するには、次のいずれかの作業を行います。

■ 400G コヒーレント光ファイバの構成例

コマンド	目的
show running interface ethernet {type slot/port}	コヒーレント ZR/ZRP 光ファイバを検証する ように設定されたインターフェイスの実行コ ンフィギュレーション情報を表示します。
show interface ethernet {type slot/port} transceiver details	インターフェイスのコヒーレント ZR/ZRP 光 ファイバ構成情報を表示します。

400G コヒーレント光ファイバの構成例

次に、ZR/ZRP 光ファイバを使用した実行構成の例を示します。

```
switch(config-if)# show running interface ethernet1/3

!Command: show running-config interface Ethernet1/3
!Running configuration last done at: Mon Aug 28 12:16:40 2023
!Time: Mon Aug 17 12:17:40 2023

version 10.3(2) Bios:version 01.10

interface Ethernet1/3
    zr-optics fec cFEC muxponder 1x400 modulation 16QAM dac-rate 1x1
    zr-optics cd-min -2400 cd-max 2400
    zr-optics transmit-power -190
    zr-optics dwdm-carrier 100MHz-grid frequency 1931000
    no shutdown
```

次に、コヒーレント構成を確認する例を示します。

10.5(3)F から :

```
switch# show interface ethernet1/3 transceiver details
Ethernet1/3
    transceiver is present
    type is QSFP-DD-400G-ZR-S
    name is CISCO-ACACIA
    part number is DP04QSDD-E20-190
    revision is A
    serial number is ACA254700F0
    nominal bitrate is 425000 MBit/sec per channel
    cisco id is 0x18
    cisco extended id number is 21
    cisco part number is 10-3495-01
    cisco product id is QDD-400G-ZR-S
    cisco version id is V01
    firmware version is 61.10
    Link length SMF is 12 km
    Nominal transmitter wavelength is 1547.70 nm
    Wavelength tolerance is 166.550 nm
    host lane count is 8
    media lane count is 1
    max module temperature is 80 deg C
    min module temperature is 0 deg C
    min operational voltage is 3.12 V
    vendor OUI is 0x7cb25c
    date code is 211125
    clei code is INUIANYEAA
```

```

power class is 8 (>14 W maximum)
max power is 20.00 W
near-end lanes used none
far-end lane code for 8 lanes Undefined
media interface is unknown value 0x10
Advertising code is Optical Interfaces: SMF
Host electrical interface code is 400GAUI-8 C2M (Annex 120E)

Optics Status:
FEC State: cFEC
DWDM carrier Info: Frequency: 0.0000 THz
Wavelength: inf nm
DAC Rate: 1x1
Configured Tx Power: -7.00 dBm
Modulation Type: 16QAM
Muxponder Type: 1x400
Configured CD-MIN: -2400 ps/nm CD-MAX: 2400 ps/nm
Transceiver Squelch Status: Enable
Laser Admin State: Off
Laser Oper State: Off
Loopback Mode: Disabled

Vendor Details:
Optics Type: QSFP-DD-400G-ZR-S
Firmware Version: Major.Minor.Build
    Active : 61.20.13
    Inactive: 61.20.13
Lane Number:1 Network Lane
-----
      Current          Alarms          Warnings
      Measurement     High       Low     High       Low
-----
Temperature   36.00 C   80.00 C   -5.00 C   75.00 C   15.00 C
Voltage       3.36 V   3.46 V   3.13 V   3.43 V   3.16 V
Current        N/A      N/A      N/A      N/A      N/A
Tx Power       N/A      0.00 dBm  -18.23 dBm  -2.00 dBm  -16.02 dBm
Rx Power       N/A      1.99 dBm  -23.01 dBm  0.00 dBm  -20.00 dBm
Transmit Fault Count = 0
-----
Note: ++ high-alarm; + high-warning; -- low-alarm; - low-warning

```

10.5(2)Fまで:

```

switch# show int e1/3 transceiver details
Ethernet1/3
    transceiver is present
    type is QSFP-DD-400G-ZR-S
    name is CISCO-ACACIA
    part number is DP04QSDD-E20-190
    revision is A
    serial number is ACA2524000V
    nominal bitrate is 425000 MBit/sec per channel
    cisco id is 24
    cisco extended id number is 21
    cisco part number is 10-3495-01
    cisco product id is QDD-400G-ZR-S
    cisco version id is V01
    firmware version is 61.22
    Link length SMF is 12 km
    Nominal transmitter wavelength is 1547.70 nm
    Wavelength tolerance is 166.550 nm
    host lane count is 8
    media lane count is 1
    max module temperature is 80 deg C
    min module temperature is 0 deg C

```

400G コヒーレント光ファイバの構成例

```

min operational voltage is 3.12 V
vendor OUI is 0x7cb25c
date code is 210614
clei code is INUIANYEAA
power class is 8 (>14 W maximum)
max power is 20.00 W
near-end lanes used none
far-end lane code for 8 lanes Undefined
media interface is C-band tunable laser
Advertising code is Optical Interfaces: SMF
Host electrical interface code is 400GAUI-8 C2M (Annex 120E)

```

Optics Status:

```

FEC State: cFEC
DWDM carrier Info: Frequency: 193.1000 THz
Wavelength: 1552.524 nm
DAC Rate: 1x1
Configured Tx Power: -10.00 dBm
Modulation Type: 16QAM
Muxponder Type: 1x400
Configured CD-MIN: -2400 ps/nm      CD-MAX: 2400 ps/nm
Transceiver Squelch Status: Enable
Laser Admin State: On
Laser Oper State: On
Loopback Mode: Disabled

```

Vendor Details:

```

Optics Type: QSFP-DD-400G-ZR-S
Firmware Version: Major.Minor.Build
    Active : 61.22.21
    Inactive: 61.10.12

```

Lane Number:1 Network Lane

	Current Measurement	Alarms		Warnings	
		High	Low	High	Low
Temperature C	46.00 C	80.00 C	-5.00 C	75.00 C	15.00
Voltage V	3.26 V	3.46 V	3.13 V	3.43 V	3.16
Current	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Tx Power dBm	-10.00 dBm	0.00 dBm	-18.23 dBm	-2.00 dBm	-16.02
Rx Power dBm	-9.70 dBm	7.99 dBm	-23.01 dBm	7.99 dBm	-21.54
Laser temperature	47.13 C	N/A	N/A	N/A	N/A
RX Channel Power dbm	-9.57 dbm	3.00 dbm	-23.50 dbm	0.00 dbm	-20.00
Pre-FEC BER	8.13e-04	N/A	N/A	N/A	N/A
Post-FEC BER	0.00e+00	N/A	N/A	N/A	N/A
CD (Short Link)	0.00 ps/nm	N/A	N/A	N/A	N/A
CD (Long Link)	0.00 ps/nm	N/A	N/A	N/A	N/A
Diff. group delay	3.00 ps	N/A	N/A	N/A	N/A
SOPMD	33.00 ps^2	N/A	N/A	N/A	N/A
PDL	0.50 dB	N/A	N/A	N/A	N/A

OSNR	36.40 dB	N/A	N/A	N/A	N/A
ESNR	18.00 dB	N/A	N/A	N/A	N/A
Carrier freq off	-391.00 MHz	N/A	N/A	N/A	N/A
SOP Rate of Chg	0.00 krad/s	N/A	N/A	N/A	N/A
Laser bias	210.00 mA	N/A	N/A	N/A	N/A
RX Q factor	9.89 dB	N/A	N/A	N/A	N/A
RX Q margin	2.70 dB	N/A	N/A	N/A	N/A
SOPMD LO GR	33.00 ps^2	N/A	N/A	N/A	N/A
Tx modulator bias	34.93 %	N/A	N/A	N/A	N/A
Transmit Fault Count = 0					

Note: ++ high-alarm; + high-warning; -- low-alarm; - low-warning					

次の例は、ブレークアウトインターフェイスでブレークアウト構成を構成する方法を示しています。

```
switch(config)# interface ethernet 1/3/1
switch(config-if)# zrp-optics fec ofec muxponder 2x100 modulation QPSK dac-rate 1x1

switch (config-if)# show running interface ethernet1/3/1

interface Ethernet1/3/1
    zrp-optics fec oFEC muxponder 2x100 modulation QPSK dac-rate 1x1
    zrp-optics cd-min -50000 cd-max 50000
    zrp-optics transmit-power -190
    zrp-optics dwdm-carrier 100MHz-grid frequency 1913000
    no shutdown
```

ZR 光ファイバのファームウェアのアップグレード

このタスクを活用、N9K-C9332D-H2R の ZR 光ファイバのファームウェアをアップグレードします。

始める前に

ファームウェア アップグレードのガイドラインをお読みください。

- 一度に 1 つのインターフェイスでファームウェアのダウンロードとアクティビ化を実行し、信頼性の高い集中的なアップグレード プロセスを確保します。
 - アップグレード プロセス中のインターフェイス構成の変更を一時停止して、スムーズなエクスペリエンスを確保します。
- リンクの安定性に影響を与える可能性のあるピアポートでの操作は、慎重に行ってください。これにより、意図しない動作を防ぎ、アップグレード中の不要なポート再プログラミングを回避できます。

ZR 光ファイバのファームウェアのアップグレード

- の機能（DOM フェッチなど）に影響を与える可能性があるため、ファームウェアのダウングレードは避けてください。

をダウングレード必要がある場合は、トランシーバを手動で再度装着するか、システムのリロードを実行して回復を支援してください。

手順

ステップ1 **install transceiver interface ethernet`interface`download** コマンドを使用して、トランシーバにファームウェアをインストールします。

例：

```
Switch# install transceiver interface ethernet 1/31 download
bootflash:560-0101-37_Rev_71_110_25_g12qsdd.ackit
Transceiver firmware download started
Switch#
```

2025 Apr 20 20:38:53 Switch %USER-SLOT1-2-SYSTEM_MSG: Firmware Download for transceiver on interface eth1/31 is completed, proceed with activation process.

show install transceiver コマンドを使用して、トランシーバのダウンロードステータスを確認します。

```
Switch# show install transceiver interface ethernet 1/1 status
Downloading is in progress [45/100 Completed]
```

ステップ2 **install transceiver interface ethernet`interface`activate | disruptive** コマンドを使用して、トランシーバでファームウェアのインストールをアクティブ化します。

ファームウェアをスイッチにインストールします。

- **activate**：ファームウェアのインストールをアクティブ化。
- **disruptive**：中断を伴うファームウェアのインストールをアクティブ化。

例：

```
Switch# install transceiver interface ethernet 1/31 activate
Firmware activation is started
Switch#
```

2025 Apr 20 20:40:10 Switch %USER-SLOT1-2-SYSTEM_MSG: Firmware Activation for transceiver on interface eth1/31 is completed.

ステップ3 **show install transceiver interface ethernet`interface`info | status** を使用して、トランシーバのファームウェアのバージョンとステータスを確認します。

例：

```
Switch# show install transceiver interface ethernet 1/31 info
Firmware Version:
Active : 71.110.25
Passive : 71.120.8
Switch#
Switch# show install transceiver interface ethernet 1/31 status
```

No transceiver firmware upgrade is in process.
Switch#

光回線システムの概要：QSFP-DD のプラガブルサポート

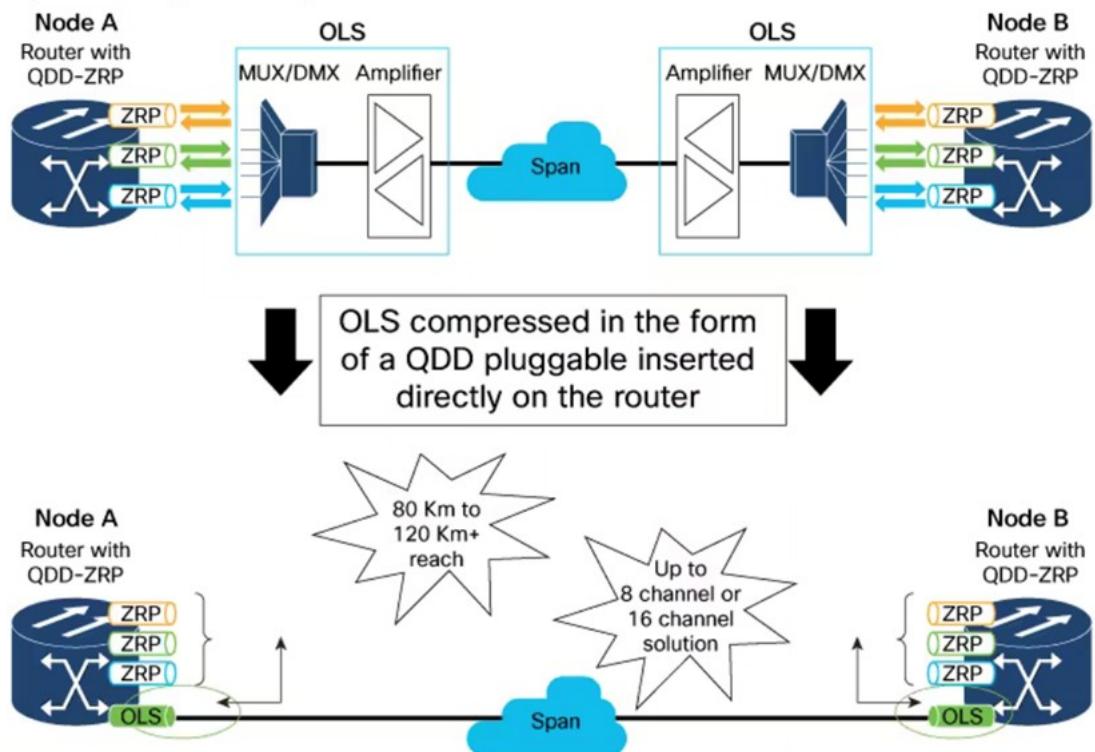
QDD 光回線システム (OLS) は、限られた数のコヒーレント光チャネルでトライフィックおよび

- ・シングルスパンのポイントツーポイントリンクとして送信する場合
- ・の2台のルータまたはスイッチ間の接続を可能にするプラガブル光増幅器です。

OLS は、追加の光ハードウェアユニットなしで 8 または 16 の光チャネルを転送するのに役立ちます。

OLS トポロジは次のように表示されます：

図 1: OLS トポロジ



■ メリット

メリット

ルータまたはスイッチのポートに接続されたQSFP-DDモジュールには、増幅機能があります。OLSを使用する利点は次のとおりです。

- ・増幅用のコンパクトなソリューションを提供し、
- ・拡張されたリーチを提供し、
- ・ファイバ帯域幅の増加、および
- ・消費電力を低減します。

シスコが提供するコヒーレントオプティクスのZRおよびZR PlusバリエントのQSFP-DD OLSのプラガブル形式のソリューションは、

- ・機器、ラックスペース、電力の削減、
- ・外部アンプやマルチプレクサの使用を避け、
- ・光ファイバ仕様、チャネル数、および信号のラインレートに応じて、400G QSFP-DD ZRまたは、ZR プラスリンクの到達距離を 40 km から 130 km 以上に拡張、および
- ・光ファイバ仕様、チャネル数、および信号のラインレートに応じて、400G Bright QSFP-DD ZRまたは、ZR + リンクの到達距離を 80 km から 130 km 以上に拡張することに役立ちます。

サポートされるプラットフォーム

- Cisco Nexus 9300 シリーズ スイッチ
 - N9K-C9364D-GX2A
 - N9K-C9332D-GX2B
 - N9K-C9348D-GX2A
- Cisco Nexus 9400 シリーズ スイッチ (N9K-X9400-8D LEM 搭載 N9K-C9408)

注意事項と制約事項

OLS 動作モードの注意事項

次に、OLS動作モードの設定に関するガイドラインを示します。

- OLS構成をアクティブにして適用するには、インターフェイスで**no shutdown**コマンドを使用します。

- ・自動電力制御モードでは、入力信号強度に関係なく、増幅器の出力電力が一定に保たれます。
- ・手動制御モードでは、利得値はピア OLS の RX と送信 OLS の TX の間の損失に基づいて決まります。リンク損失を活用 COM および回線側で適切なゲインを構成し、重要なアプリケーションで高い信号対雑音比率を実現します。

利得値は、ピア OLS の RX と送信 OLS の TX 間の損失に基づいて決まります。2つの OLS (ols A と ols B) 間のリンク損失は A->B で、ols A の tx_power から ols B の rx_power を引いたものです。損失は、ols B の利得によって補正されます。

たとえば、リンク損失が 10db で、ols-A の tx power が 0db の場合、ols B の rx_power は 0 -10 で、-10dbm になります。この 10dbm の利得を、COM (受信) 側で補正するために ols B に適用します。

光安全リモートインターロック (OSRI) の注意事項

OSRI が有効になっている場合、最大出力電力は入力電力に基づいて -15dBm になります。

OLS 安全制御モード

- ・安全制御モードは、回線側でのみ有効になります。
- ・安全制御モードが有効で、回線 RX で LOS が検出された場合。回線 TX は、信号出力電力を 8dBm に正規化し、回線増幅器を自動電力削減 (APR) にします。これにより、オープン回線での高レベルの光パワーの放出が防止されます。
- ・APR (自動電力削減) は、安全制御が有効になっており、rx-loss が検出された場合に、アンプを安全な状態に保ち、既知の電力レベル (8dbm) に固定する一時的な状態です。トラブルシューティングの場合には、APR を永続的に (リンク接続によって独立して) 強制できます。
- ・リンク接続が確認されると、増幅器は最終的な動作状態 (利得制御または電力制御) に移行します。

波長と周波数に関する推奨事項



(注) OLS でコヒーレント光学系を使用する場合は、固有の周波数があることを確認します。

■ 注意事項と制約事項

チャネル間隔	総帯域幅	波長 (nm)		周波数 (THz)	
		開始	契約	開始	契約
8 チャネル (200 GHz 間隔)	19.2 nm 2.4 THz	1539.1	1558.4	192.375	192.775
16 チャネル (100 GHz 間隔)					

8 チャネル システムの推奨事項

ITU XR チャネル	周波数 (THz)	波長 (nm)
37	194.3	1542.94
41	194.1	1544.53
45	193.9	1546.12
49	193.7	1547.72
53	193.5	1549.32
57	193.3	1550.92
61	193.1	1552.52
65	192.9	1554.13

16 チャネル システムの推奨事項

ITU XR チャネル	周波数 (THz)	波長 (nm)
37	194.3	1542.94
39	194.2	1543.73
41	194.1	1544.53
43	194.0	1545.32
45	193.9	1546.12
47	193.8	1546.92
49	193.7	1547.72
51	193.6	1548.51
53	193.5	1549.32

ITU XR チャネル	周波数 (THz)	波長 (nm)
55	193.4	1550.12
57	193.3	1550.92
59	193.2	1551.72
61	193.1	1552.52
63	193.0	1553.33
65	192.9	1554.13
67	192.8	1554.94

QDD-ZR のリンク損失

Line Rate	トラフィックモードの設定	TX 電力設定	保証されたリンク損失範囲 (dB)
400G	400ZR-CFEC-16QAm-0-S	デフォルト	0~19

リンク損失	QDD-OLS 設定	
	EDFA-TX ゲイン (dB)	EDFA-RX ゲイン (dB)
0	22	3
1	23	

■ 注意事項と制約事項

リンク損失	QDD-OLS 設定	
	EDFA-TX ゲイン (dB)	EDFA-RX ゲイン (dB)
2	24	4
3		5
4		6
5		7
6		8
7		9
8		10
9		11
10		12
11		13
12		14
13		15
14		16
15		17
16		18
17		19
18		20
19		21
20	24	22
21	24	23
22	N/A	該当なし
23	N/A	該当なし
24	N/A	該当なし
25	N/A	該当なし
26	N/A	該当なし
27	N/A	該当なし
28	N/A	該当なし
29	N/A	該当なし
30	N/A	該当なし
31	N/A	該当なし

リンク損失	QDD-OLS 設定	
	EDFA-TX ゲイン (dB)	EDFA-RX ゲイン (dB)
32	N/A	該当なし
33	N/A	該当なし

QDD-ZRP のリンク損失

Line Rate	トラフィック モードの設定	TX 電力設定	保証されたリンク損失範囲 (dB)
400G	400ZR-oFEC-16QAM-1-E	デフォルト	0~23
300 G	300ZR-oFEC-8QAM-1-E	デフォルト	0 ~ 26
200G	200ZR-oFEC-16QPSK-0-S	デフォルト	0 ~ 29

■ 注意事項と制約事項

QDD-ZRP 400G のリンク損失

リンク損失	QDD-OLS 設定	
	EDFA-TX ゲイン (dB)	EDFA-RX ゲイン (dB)
0	22	3
1	23	
2	24	
3		4
4		5
5		6
6		7
7		8
8		9
9		10
10		11
11		12
12		13
13		14
14		15
15		16
16		17
17		18
18		19
19		20
20		21
21		22
22		23
23		24
24	24	24
25	24	24
26	N/A	該当なし
27	N/A	該当なし
28	N/A	該当なし
29	N/A	該当なし

リンク損失	QDD-OLS 設定	
	EDFA-TX ゲイン (dB)	EDFA-RX ゲイン (dB)
30	N/A	該当なし
31	N/A	該当なし
32	N/A	該当なし
33	N/A	該当なし

■ 注意事項と制約事項

QDD-ZRP 300G のリンク損失

リンク損失	QDD-OLS 設定	
	EDFA-TX ゲイン (dB)	EDFA-RX ゲイン (dB)
0	22	3
1	23	
2	24	
3		4
4		5
5		6
6		7
7		8
8		9
9		10
10		11
11		12
12		13
13		14
14		15
15		16
16		17
17		18
18		19
19		20
20		21
21		22
22		23
23		24
24		
25		
26		
27	24	24
28	24	24
29	N/A	該当なし

リンク損失	QDD-OLS 設定	
	EDFA-TX ゲイン (dB)	EDFA-RX ゲイン (dB)
30	N/A	該当なし
31	N/A	該当なし
32	N/A	該当なし
33	N/A	該当なし

■ 注意事項と制約事項

QDD-ZRP 200G のリンク損失

リンク損失	QDD-OLS 設定	
	EDFA-TX ゲイン (dB)	EDFA-RX ゲイン (dB)
0	21	3
1	22	
2	23	
3	24	
4		4
5		5
6		6
7		7
8		8
9		9
10		10
11		11
12		12
13		13
14		14
15		15
16		16
17		17
18		18
19		19
20		20
21		21
22		22
23		23
24		24
25		
26		
27		
28		
29		

リンク損失	QDD-OLS 設定	
	EDFA-TX ゲイン (dB)	EDFA-RX ゲイン (dB)
30	24	24
31	N/A	該当なし
32	N/A	該当なし
33	N/A	該当なし

Bright-ZRP のリンク損失

Line Rate	トラフィック モードの設定	TX 電力設定	保証されたリンク損失範囲 (dB)
400G	400ZR-oFEC-16QAM-1-E	デフォルト	0 ~ 28
300 G	300ZR-oFEC-8QAM-1-E	デフォルト	0 ~ 29
200G	300ZR-oFEC-8QAM-1-E	デフォルト	0 ~ 29

■ 注意事項と制約事項

Bright-ZRP 400G のリンク損失

リンク損失	QDD-OLS 設定	
	EDFA-TX ゲイン (dB)	EDFA-RX ゲイン (dB)
0	13	3
1	14	
2	15	
3	16	
4		4
5		5
6		6
7		7
8		8
9		9
10		10
11		11
12		12
13		13
14		14
15		15
16		16
17		17
18		18
19		19
20		20
21		21
22		22
23		23
24		24
25		
26		
27		
28		
29	17	24

リンク損失	QDD-OLS 設定	
	EDFA-TX ゲイン (dB)	EDFA-RX ゲイン (dB)
30	17	24
31	N/A	該当なし
32	N/A	該当なし
33	N/A	該当なし

■ 注意事項と制約事項

QDD-ZRP 300G のリンク損失

リンク損失	QDD-OLS 設定	
	EDFA-TX ゲイン (dB)	EDFA-RX ゲイン (dB)
0	13	3
1	14	
2	15	
3	16	
4		4
5		5
6		6
7		7
8		8
9		9
10		10
11		11
12		12
13		13
14		14
15		15
16		16
17		17
18		18
19		19
20		20
21		21
22		22
23		23
24		24
25		
26		
27		
28		
29		

リンク損失	QDD-OLS 設定	
	EDFA-TX ゲイン (dB)	EDFA-RX ゲイン (dB)
30	17	24
31	17	24
32	N/A	該当なし
33	N/A	該当なし

■ 注意事項と制約事項

QDD-ZRP 200G のリンク損失

リンク損失	QDD-OLS 設定	
	EDFA-TX ゲイン (dB)	EDFA-RX ゲイン (dB)
0	13	3
1	14	
2	15	
3	16	
4		4
5		5
6		6
7		7
8		8
9		9
10		10
11		11
12		12
13		13
14		14
15		15
16		16
17		17
18		18
19		19
20		20
21		21
22		22
23		23
24		24
25		
26		
27		
28		
29		

リンク損失	QDD-OLS 設定	
	EDFA-TX ゲイン (dB)	EDFA-RX ゲイン (dB)
30	17	24
31	17	24
32	N/A	該当なし
33	N/A	該当なし

増幅器制御モードの構成

OLS には 2 つのアンプがあります。

- COM 増幅器は、

伝送のためにファイバ ネットワークから接続されたコヒーレント オプティクスへの着信信号をブーストします。

- 回線増幅器は、

コヒーレント オプティクスからの信号をブーストして、ファイバを介して送信します。

手順の概要

1. グローバル構成モードを開始します。
2. 回線および com の増幅器制御モードを有効または無効にします。
 - 出力制御の手動。
 - 出力制御の powermode

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	グローバル構成モードを開始します。 例： switch# configure terminal	configure terminal
ステップ 2	回線およびcomの増幅器制御モードを有効または無効にします。 • 出力制御の手動。	[no] ols { com line } egress control <mode> デフォルトのモードは手動です。パラメータ設定は次の表で定義されています。

■ ゲインコントロール モードを構成

	コマンドまたはアクション	目的			
例 :	• 出力制御の powermode <pre>switch(config)# ols com egress control manual</pre>	側面	デフォルト	最小	最大
		com	手動	power	手動
		ライン	手動	power	手動

ゲインコントロール モードを構成

手順の概要

1. グローバル構成モードを開始します。
2. 回線と COM の OLS プラガブルの目的のゲイン値を構成します。

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的												
ステップ1	グローバル構成モードを開始します。 例 : <pre>switch# configure terminal</pre>	configure terminal												
ステップ2	回線と COM の OLS プラガブルの目的のゲイン値を構成します。 例 : <pre>switch(config)# ols com egress gain 200</pre>	[no] { ols com egress <com_gain> line egress gain <line_gain> } ゲインの単位は 0.1 dBm です。パラメータ設定は次の表で定義されています。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>側面</th> <th>デフォルト</th> <th>最小</th> <th>最大</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>com</td> <td>200</td> <td>30</td> <td>250</td> </tr> <tr> <td>ライン</td> <td>210</td> <td>70</td> <td>250</td> </tr> </tbody> </table>	側面	デフォルト	最小	最大	com	200	30	250	ライン	210	70	250
側面	デフォルト	最小	最大											
com	200	30	250											
ライン	210	70	250											

電力制御モードの構成

手順の概要

1. グローバル構成モードを開始します。
2. 回線と COM の OLS プラガブルの目的の出力電力 (TX) を構成します。

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的												
ステップ1	グローバル構成モードを開始します。 例： switch# configure terminal	configure terminal												
ステップ2	回線と COM の OLS プラガブルの目的の出力電力 (TX) を構成します。 例： switch(config)# ols com egress power 20	[no] ols { com egress power <com_power> line egress power <line_power> } 電力の単位はdBmです。パラメータ設定は次の表で定義されています。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>側面</th> <th>デフォルト</th> <th>最小</th> <th>最大</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>com</td> <td>80</td> <td>10</td> <td>170</td> </tr> <tr> <td>ライン</td> <td>80</td> <td>0</td> <td>170</td> </tr> </tbody> </table>	側面	デフォルト	最小	最大	com	80	10	170	ライン	80	0	170
側面	デフォルト	最小	最大											
com	80	10	170											
ライン	80	0	170											

電力削減モードを構成

手順の概要

1. グローバル構成モードを開始します。
2. 電力削減モードを有効または無効化にします。

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的												
ステップ1	グローバル構成モードを開始します。 例： switch# configure terminal	configure terminal												
ステップ2	電力削減モードを有効または無効化にします。 例： switch(config)# ols com egress force power-reduction	[no] ols { com line } egress force power-reduction <table border="1"> <thead> <tr> <th>側面</th> <th>デフォルト</th> <th>最小</th> <th>最大</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>com</td> <td>オフ</td> <td>オン</td> <td>オフ</td> </tr> <tr> <td>ライン</td> <td>オフ</td> <td>オン</td> <td>オフ</td> </tr> </tbody> </table>	側面	デフォルト	最小	最大	com	オフ	オン	オフ	ライン	オフ	オン	オフ
側面	デフォルト	最小	最大											
com	オフ	オン	オフ											
ライン	オフ	オン	オフ											

■ 光安全性リモートインターロック (OSRI) モードの構成

光安全性リモートインターロック (OSRI) モードの構成

増幅器をシャットダウンするには、光安全性リモートインターロック (OSRI) 構成を使用します。プラガブルのメンテナンスのため、および OLS プラガブルが動作していない場合は、構成を使用します。

手順の概要

1. グローバル構成モードを開始します。
2. 電力削減モードを有効または無効にします。

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的												
ステップ 1	グローバル構成モードを開始します。 例： switch# configure terminal	configure terminal												
ステップ 2	電力削減モードを有効または無効にします。 例： switch(config)# ols com egress force power-reduction	[no] ols { com line } egress force power-reduction デフォルトモードは、オフです。パラメータ設定は次の表で定義されています。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>側面</th> <th>デフォルト</th> <th>最小</th> <th>最大</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>com</td> <td>オフ</td> <td>オン</td> <td>オフ</td> </tr> <tr> <td>ライン</td> <td>オフ</td> <td>オン</td> <td>オフ</td> </tr> </tbody> </table>	側面	デフォルト	最小	最大	com	オフ	オン	オフ	ライン	オフ	オン	オフ
側面	デフォルト	最小	最大											
com	オフ	オン	オフ											
ライン	オフ	オン	オフ											

安全制御モードを構成

手順の概要

1. グローバル構成モードを開始します。
2. 安全制御モードを有効または無効にします。
 - 自動または
 - 無効

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	グローバル構成モードを開始します。 例： switch# configure terminal	configure terminal
ステップ2	安全制御モードを有効または無効にします。 • 自動または • 無効 例： switch(config)# ols ols line egress safety-control	[no] ols line egress safety-control デフォルト モードは、自動です。

OLS 構成の確認

OLS 詳細情報を表示します。

詳細な OLS 情報を確認するには、**show interface ethernet traffic details** コマンドを使用します。

```
switch# show interface ethernet 1/2 transceiver details
Ethernet1/2
    transceiver is present
    type is ONS-QDD-OLS
    name is CISCO-ACCELINK
    part number is EDFA-211917-QDD
    revision is 27
    serial number is ACW2723Z007
    nominal bitrate is 425000 MBit/sec per channel
    cisco id is 24
    cisco extended id number is 237
    cisco part number is 1010045801
    cisco product id is ONS-QDD-OLS
    cisco version id is V01
    firmware version is 2.7
    host lane count is 0
    media lane count is 0
    max module temperature is 0 deg C
    min module temperature is 0 deg C
    min operational voltage is 0.00 V
    vendor OUI is 0x000000
    date code is 23070401
    clei code is WMOGAT2MAA
    power class is 2 (3.5 W maximum)
    max power is 3.50 W
    near-end lanes used none
    far-end lane code for 8 lanes Undefined
    media interface is others
```

OLS 構成の確認

```

Advertising code is Optical Interfaces: SMF
Host electrical interface code is Undefined
media interface advertising code is Undefined
Operational Parameters:
-----
    COM Side:
        Total Tx Power = -327.68 dBm
        Rx Signal Power = -327.68 dBm
        Tx Signal Power = -327.68 dBm
        Egress Ampli Gain = 0.0 dBm
        Egress Ampli OSRI = ON
        Egress Force APR = ON
    Line Side:
        Total Tx Power = -327.68 dBm
        Rx Signal Power = -327.68 dBm
        Tx Signal Power = -327.68 dBm
        Egress Ampli Gain = 0.0 dBm
        Egress Ampli Safety Control mode = disabled
        Egress Ampli OSRI = ON
        Egress Force APR = ON
Configured Parameters:
-----
    COM Side:
        Egress Ampli Gain = 20.0 dBm
        Egress Ampli Power = 17.0 dBm
        Egress Ampli OSRI = ON
        Ampli Control mode = Power
        Rx Low Threshold = -300.0 dBm
        Tx Low Threshold = -50.0 dBm
        Egress Force APR = ON
    Line Side:
        Egress Ampli Gain = 20.0 dBm
        Egress Ampli Power = 17.0 dBm
        Egress Ampli Safety Control mode = disabled
        Egress Ampli OSRI = ON
        Ampli Control mode = Power
        Rx Low Threshold = -300.0 dBm
        Tx Low Threshold = -50.0 dBm
        Egress Force APR = ON
        Temperature = 19.70 Celsius
        Voltage = 3.34 V

```

簡易 OLS 情報の表示

OLS 情報を簡単に確認するには、**show interface ethernet brief** コマンドを使用します。

```
switch# show interface e1/2 brief
```

```
-----
Ethernet      VLAN      Type Mode   Status   Reason           Speed     Port
Interface
-----
Eth1/2        --        eth  routed  down    olsInserted  auto(D)  --

```

光ファイバのステータスを表示します。

show interface status コマンドを使用して、オプティクのステータスを確認します。

```
switch# show interface e1/2 status
```

```
-----
Port          Name       Status   Vlan    Duplex  Speed   Type
-----
```

```
-----  
Eth1/2      --          olsInsert routed    auto    auto    ONS-QDD-OLS
```

実行構成を表示します

OLS の実行構成を表示するには、**show running-config interface ethernet** コマンドを使用します。

```
switch# show running-config interface ethernet1/2  
!Command: show running-config interface Ethernet1/2  
!Running configuration last done at: Mon Feb 26 12:39:24 2024  
!Time: Mon Feb 26 13:03:34 2024  
version 10.4(3) Bios:version 01.07  
interface Ethernet1/2  
    ols com egress control power  
    ols com egress osri  
    ols com egress power 170  
    ols line egress control power  
    ols line egress osri  
    ols line egress gain 200  
    ols line egress power 170  
    no ols line egress safety-control  
    ols com egress force power-reduction  
    ols line egress force power-reduction  
    no shutdown
```

■ OLS 構成の確認

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。